

# いるま

第 37 号

題字 会長  
令和3年2月1日  
発行者  
井 上 清

## 退職後こそ夢を叶える時



皆様には  
コロナ禍の  
日々をいか  
が過ごされ  
たでしょうか。

当たり前と思っていた日常が失われ、改めてその有難さに気づかされた。

私は昨年喜寿を迎えた。元氣であるが老いは争えず、年々体力の衰えを感じる。ただ精神はさほどでもないと思いに自負している。

老いは受け容れざるを得ないが、老いることは決して哀れでも惨めでもない。誰もが老人力を秘めていて、それを生かせる場がある。

本誌の「生きがい」欄でも多くの方が自らの生きがいを語っておられるが、老いても潑刺として活躍されている方は少なくない。

副会長 比留間 英雄

退職後をいかに過ごすかは、各自が問われている課題である。退職して自由時間が十分にある今こそ、長年の夢を叶える絶好の機会である。その機会を逸しては残念で悔やまれる。退職後こそ、第二の人生が始まるのである。

私の夢は、彰義隊十四番隊長であった曾祖父良八の事績を調べることにあったが、退職後その機会が訪れた。各地の図書館

## 学び続け実践する



ノーベル  
医学生理学  
賞を受賞し  
たオースト  
リア動物行動学者コンラート・ローレンツ博士の著書『生命は学習なり』に次のような言葉が

入間地区小学校長会会長 増田 英明

「人間というものは第一に自分が好きな人、そのうえで第二に尊敬を抱いている人からのみ伝統を受け継げるようにプログラミングされている。」

この言葉は、教師が豊かな専門性・人間性・教養を兼ね備え

や史跡を巡り研究者を訪ね、八年をかけて一冊の本にまとめたが、その間は生きがいがあった。今は次の夢を追いかけている。退職後には、地域をはじめ多くの方との出会いがある。その交流から新たな発見や喜びも生まれる。退職は、豊かな日々を送るスタートにもなるのである。

この退職校長会も大切な交流の場である。会員には諸行事に積極的に参加され、交流を深めてお互いに学びあう場にしたい。

本誌は現職校長にも届くので、皆様にも伝えたい。学校経営の相談や学校ボランティアの要請等、気軽に私達に連絡いただきたい。

学校現場の苦勞を察するが、退職後には夢を叶える機会が訪れるのでどうか奮闘してほしい。

た存在でなければならぬことをあらわしています。さらに自分自身、常に学び続ける存在でなければならぬこともあらわしている言葉であると思えます。

教育の目的が「人格の完成」という崇高なものであり、常に変化する社会の一員として未来を拓く力を子どもたちにつけるという使命が教師にあるからです。

新学習指導要領が全面实施となり、未来の創り手となる子どもたちに必要な資質能力を育む教育活動の質の向上を図ることが求められています。

また、新型コロナウイルスの感染拡大は、学校の学習環境を大きく変えるきっかけとなりました。大きな変化の時代ですが、改めて「学び実践する校長会」、「学び続ける校長」として常に精進していかねければならぬと感じています。

結びに、入間地区退職校長会の諸先輩方が培われた実践とご指導に心より感謝申し上げますとともに、今後の更なる発展をご祈念申し上げます。今後とも皆様のご支援・ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

(所沢市立柳瀬小学校)

「彩の国教育の日」協賛 教育推進研究協議会  
**私の学校経営** 入間市立西武小学校長  
 篠塚 清治

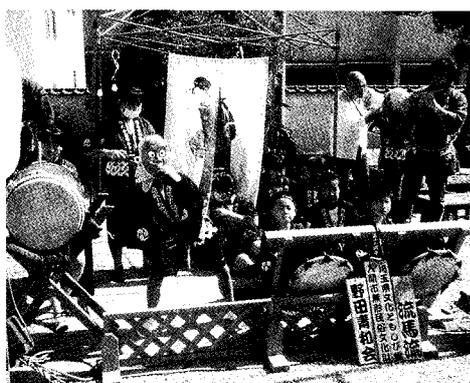


西武小学校は、入間市の西部に位置し、すぐ南側には入間川と加治丘陵があり、

環境にとっても恵まれた学校です。昔は、西武町唯一の小学校として存在し、今でも地元の方々の学校愛がとて強い学校です。本校のグランドデザインにも「地域と共に歩む西武小学校」を掲げ、その特色を活かした教育活動に取り組んでいるところです。その一つの例として挙げられるのが地元の野田囃子です。本校には、お囃子クラブがあり、地元の獅子連の方の指導をいただきながら活動をしています。クラブの時間には、お囃子の音が校舎内に響き渡り、お祭りの雰囲気を感じさせています。子供たちは、獅子連のご厚意で寺や地域の夏祭り、市の万燈まつりでお囃子を披露させてもらっています。五年生の総合的な学習の間でも、野田囃子を題材にした学習を行っています。授業時間や休み時間には、五年生が練習してい

るお囃子の音が校庭まで聞こえてきます。今年度はコロナウイルス感染症の影響で学校の教育活動も一学期は全ての行事を中止または延期とし、感染症対策を最優先にしての教育活動でした。休校による学習の遅れを取り戻すために、学校再開後は感染の心配のある音楽や外国語の授業は行わず、国語、算数、理科、社会の主要教科を中心にした時間割を組むなどの対応をとってきました。その他にも、これまで当たり前だった様々なことができなかつたり、形を変えたりと難しい対応が日々続きました。特に一学期は、子供たちにとっても我慢の日々が続いたと思います。二学期は、感染症対策と教育活動の両立を目指し、何ができるのか、どう工夫すればできるのかを十分に話し合い、保護者の理解を得ながら教育活動を進めています。運動会や修学旅行は、感染症対策を可能な限りとった上で実施をしました。リスクゼロとなると、ほとんどの教育活動ができないという判

断になりますので、市教委の方針を踏まえつつ、校長として個々の判断を下しているところですが、私の学校経営の柱は「協働」の精神です。一人一人が自分の職責をしっかりと果たすと共に、全ての教職員が力を合わせていく環境を調べていくことを重要視しています。学校経営参画意識を持たせるために、校長として大きな方針は示しますが、具体策についてはできるだけ職員に任せ、必要最小限の指示に努めています。本校では毎年二名の初任者が着任しますが、経験人事で異動するまでの間、必ず低・中・高学年の担任を経験させるようにしています。できるだけ早くいろいろな学年を経験することが何よりの人材育成の手段



お囃子クラブ (地域のお寺のお祭りにて)

と考えているからです。

新学習指導要領が全面实施され、外国語の授業力の向上が課題となっています。本校では市教委の委嘱を受け、昨年度から「児童も教師もいきいきと活動できる授業づくり」をテーマに外国語の校内研修に取り組んでいます。AETがいなくても一人で授業ができる指導力を全ての教員が身に付けることを目的に、研修がスタートしました。授業プランを統一し、見通しを持って安心して授業ができる授業スタンダード作り、クラスルームイングリッシュやゲーム、歌などのアクティビティの習得、活用など、授業実践に力点を置いた研修を行っています。

西武小学校に着任し三年目になりますが、地域や保護者の方は学校に対しての理解が深く、子供たちもとても素直で学ぶ意欲もあります。このことは、歴代の校長先生をはじめ教職員の皆さんの努力や地域、保護者の方の学校愛に支えられている面が非常に大きいと思っています。多くの方々を支えられて今の私の学校経営があるという事を忘れずに、今後の職責を果たしていきたいと思えます。

「彩の国教育の日」協賛 教育推進研究協議会  
 生徒の活躍の場をひろげよう  
 飯能市立美杉台中学校長 斉藤 国明



一・はじめに

本校は今年、開校二十年の節目を迎えました。二十年前、初代

校長（故）丸山先生を訪ね、近代的整備と木のぬくもりを備えた真新しい校舎を案内していただいた遠き日が今も鮮明に思い出されます。経年劣化は否めないものの、生徒たちが大切に使い、磨き続けてきた校舎は今なお美しく、恵まれた学習環境の中で充実した学校生活を送られています。若かりし頃より大変お世話になった丸山先生が築かれた学校で、校長として開校二十周年の節目を迎えていることに奇しき縁を感じています。

二・目指す学校像

学校教育目標に「笑顔・あいさつ・学び合い」活躍し続ける美中生」を掲げています。「活躍」のためのキーワードは『チャンス・チャレンジ・チェンジ』です。身の回りに溢れているチャンスに目を凝らし、思い切ってチャレンジし、失敗も成功も経験しながら自分自身を変容させる（チェンジす

る）・・・そんな生徒の姿を思い描きながら、学校生活の中に様々な活動の場面を用意しています。生徒の活躍の舞台を創造するのは教職員です。教職員の笑顔は生徒の笑顔に直結します。「教職員が最大の教育環境である」からこそ、教職員の資質向上と、教職員の笑顔を大切にしています。

目指す学校像は「生徒が通いたい学校」「保護者が通わせたい学校」「教職員が働きたい学校」「地域が立ち寄りたい学校」です。

三・教職員が最大の教育環境

学校研究では、研究主題を「学びの意義を理解し、進んで学習に取り組む生徒の育成」主体的・対話的で深い学びが実現できる授業づくり」とし、講師を招聘して研究を進めています。生徒の学びの姿にフォーカスした授業研究、学期に一回の相互参観での学び合いを通じて授業改善に取り組んでいます。

九月に導入された生徒一人一台のタブレット端末活用では特設の校内研修を重ね、授業や定期試験前の質問教室、校外学習、委員会

活動など様々な場面でフル稼働させ、日々活用の幅を広げています。コロナ禍の休校期間から学校再開、そして現在に至るまで、労を惜しまずチーム一丸となつて前向きに有事に立ち向かってきた教職員は、誇りとするとところでは、

残念ながら本年度はこれまでに多くの根積みの機会が奪われてしまいました。一方で生徒たちは当たり前前にできていたことの有難さに気づき、一つ一つに感謝の思いを持って日常の生活を大切に過ごしています。

四・活躍する生徒の姿

例年の本校生徒の活躍の場面を紹介します。一学期は新しい出会いの中で仲間との絆を深める『チャンス』です。一年生は「いじめ防止プログラム」で思いやりの心を学びます。二学期には様々な『チャレンジ』の機会が訪れます。「体育祭」「学校祭（研究発表、合唱祭を融合した文化の祭典）」「ロードレース大会」「夢を語る会」など、行事に取り組み姿勢「美中魂」が先輩から後輩へ連綿と受け継がれます。生徒会が中心となつた自治活動も活発に行われています。心を磨く黙働清掃の時間も大切にされています。「美杉台フェスタ」や「敬老祝賀会」など地域の行事の中でも活躍の場をいただき、それぞれの生徒が『チェンジ（変容）』の姿を見せてくれます。

最大限の感染症予防策を講じながら、勇気を持って生徒の活躍の場を取り戻していくことが、学校に課せられた使命であると受け止めています。保護者・地域の皆様力強いご支援をいただきながら、目指す生徒像を共有し、地域とともにある学校づくり、卒業後も地域の中で活躍し続ける美中生の育成に邁進する所存です。

子年の年頭、始業式で『根積み』の年、皆さんの一層の活躍を期待しています。」という話をしました。



生徒会本部主催による自治活動  
 ～あさひ山落ち葉掃きボランティア～

「彩の国教育の日」協賛 教育推進研究協議会  
交流サロン運営は私の生きがい

日高班 鯉沼 文夫



今年度の人間地区教育推進研究協議会での発表は叶わなかったが、改めて紙

面発表の機会をいただき感謝している。その一端を微力ながら述べさせていただく。

早いもので、退職してから八年。今年七月、古希を迎えた。退職後、縁あって日高市社会福祉協議会の会長を、さらには地元自治会の役員を六年間務めた。どちらも無事にその任を終えて、今は趣味の油彩による風景画を描き、いくつかの展覧会に出品するなどして過ごしている。

一方、社会福祉協議会での経験をふまえて、三年前に発足させた地域交流サロン活動に取り組んでいる。立ち上げた動機は、高齢者福祉問題や高齢者の防災対策など、自治会内の課題解決に取り組む必要があったからである。現在、自治会の主要な事業の一つとなっている。

発足したのは、平成二九年九月である。月一回、第二日曜日、対象は自治会会員で高齢者に限定せず、全会員に呼びかけて開催している。

活動例として、合唱、健康体操、グラウンドゴルフ、そばづくり、民話を聞く会、落語鑑賞、マジックショーなど、あげたら切りがないほど充実した活動に、参加者からは大変好評を得ている。参加者は、毎回平均二八名。日高市内でもサロンを開催しているところは複数あるが、本会の特色は、毎回男性の参加者が多いということである。このことより、サロン活動がより充実したものとなっている。

活動例を三点ほど紹介する。

①グラウンドゴルフ

参加人数が最も多い活動で、毎回四十名を超える参加者を数えている。自治会の敷地にコースを設定し、スコアを競い合い、競技後は懇親会を行っている。

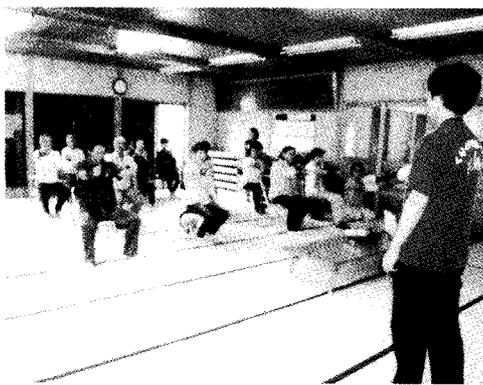
②健康体操

高齢者の体力向上と親睦を深める

目的で開催している。指導は、健康体操指導者に依頼している。遊びやゲームを取り入れた運動に熱心に取り組み、体力向上につながる」と好評を得ている。

③そば作り・まんじゅう作り

会員の中にそば打ち名人がおり、指導者になっていただいている。また、夏の地域伝統行事にもなっている酒まんじゅう作りは、幼児や小学生も参加する世代間交流の場となり、衰退化する地域伝統行事を食い止めようとする意識が育っている。



健康体操で元気な体づくり

企画運営には苦勞も多いが、社

協でお世話になった関係者や民生委員、高麗地区地域包括支援センター専門委員の方々との連絡調整

に関わったり、運営委員の皆さんと連絡を取り合って開催していくことが、私の生きがいとなっている。さらには、地区内のサロン活動の話題が広がり、目的の一つである地域の円滑なコミュニケーションが図られるようになり、高齢者の防災活動支援につながる事例も生まれている。

周知のとおり、コロナウイルス感染が今年二月頃から拡大し、いまだに収拾がつかない状況である。本サロンも四月から活動を休止しており、再開のめどが立っていない。しかしながら、参加者からの再開を願う声も多く聞かれるようになり、運営会議を重ねて来た結果、十一月にコロナ感染への安全対策を講じて再開することになった。

コロナウイルス感染の対応で正直苦勞も多いが、参加されている皆さんの笑顔を見るたびに、サロンの運営に携わっていることへの充実感がわいてくるとともに、関係者の方々からより一層の支援をいただき、会の充実発展に向けて更に精進しなければならぬと決意を新たにしているところである。

日日是新

越生 伊藤 明



教育界を引退して三年目。何もやることがないと思っていたら、次々と頼まれ仕事が舞込む毎日。現在、町内外十七団体の活動に関わっています。しかし、今年はコロナ禍の影響で、昨年全国八箇所



農場にて

で奉仕した流鏝馬行事が中止となり、こうねん大学も休校となっていました。そうした中において、今私を取り組んでいるものを見てみます。

プラム等の剪定を行います。手を掛ければ掛けるほど、良いものが収穫できます。それを知人にあげるのが楽しみとなっています。また、東松山市にある五町歩ほどの農場で、荒れ地を耕し、作物を作っています。三年目になり、農場らしくなってきました。また、月に数回、実家の農作業を手伝いに行き、農業を学んでいます。来年は、有機栽培に挑戦します。

二つ目は、読書です。読書は読書でも、努めて経書を読むことにしています。(経書を読むは即ち我が心を読むなり：佐藤一齋) 経書には、現代にも通用することが多く書かれています。また、亡父が若かりし時に学んだ安岡教学を学んでいるところです。学んだことを生かし、実践していきたいと思っています。佐藤一齋の『三学』にある「小而学壯而有為、壯而学老而不衰、老而学死而不朽」でありたいと思います。

三つ目は、史跡巡りです。私は大学で「中世の館城跡の研究」を卒業論のテーマに県内をフィールドワークしました。今でも暇ができると史跡調査と題して、県内外の史跡や博物館に行き、往時に思いを馳せています。特に、比企地区には中世の館城跡が多いので、全ての史跡を訪ねるのが目標です。日日是新たなれば日日是好日。

あれから四年

一乳幼児とともに

入間東部 大根田 良夫

定年退職前、新しい生活を様々思い描いていた。生活綴方や大正自由教育をもう一度学び直そう、古文書が読めるようになりたい。「ブラタモリ」のように地形と歴史とおいしい物を求めて気ままな旅をしてみたいとか、やりたいことやってみたいことなど夢はふくらんでいた。

ところが現実には、年金開始まで働かないとこれからの老後生活が立ち行かなくなるといふ大きな壁があった。そこで、夢と仕事の両立の道を探ることにした。

一年目は、今までの感謝の気持ちと若手育成の願いを込めて初任研指導教員を行った。自分自身の教育実践も振り返ることができた充実した一年間であった。この間に、ある理事長から保育園長へのお誘いがあった。教育界にまだ未練はあるし迷いがあったが、孫ができ、乳幼児のかわいらしさを改めて実感し、何よりも「子どもらしい子どもに育てる」という保育理念に深く共感し、二年目から今日に至るまで保育の世界に身を置いている。

いざ保育現場に入ってみると、教育現場との違いに戸惑うことが

多かった。例えば、未満児・以上児、二号認定など用語の理解から始まった。しかし、日々子ども達と接していると、ゼロ歳児から十二歳児までの発達を見直す視点を保育士と子ども達との関わりから多くを学ぶことができた。



最後まで頑張ったね！～メダル授与～

現職中は生活科と関わってきたことが、生活科で大切にしてきたことの中で、活動を通して学ぶとか指導と支援のあり方、そのための環境構成のあり方などがごく日常保育の中で実践されているのである。「生きる力」とはを、改めて考えさせられる日々である。

これからのくらしい続けることができるか分からないが、体力・気力・知力が続く限り、保育と自分の夢の両立を目指して頑張ってみようと思っている。

会員の声

コロナ禍で思うこと

狭山 橋本正之

小・中学校に勤務していた時は違った雰囲気・緊張感の中、可愛い笑顔に包まながら仕事をしています。

コロナ禍の不安の続く中、諸活動は中止や規模縮小をせざるを得ない状況にあります。令和を迎えた初めての春。待ち焦がれた嬉しい卒・入園はこれまでの祝福ムードを一変させてしまいました。これからも新たな生活様式により諸活動に臨まなければなりません。他との関わりや教師との多様な関わりが重視される中、幼児教育においては「密接」は避けることができません。子供の心に寄り添うためには、やはりスキシップは欠かせないものです。

ゴールの见えないコロナ禍ですが、元氣と笑顔を忘れずに、この難局を乗りこえたいと思います。

退職後は地元への地域貢献

毛呂山 内野隆好

現職の頃は、自宅と職場との往

復で、職務・部活動と農業の日々であり、地域の社会活動には、あまり参加できませんでした。

退職後は、自分の器の範囲内で地元の様々な団体や組織に入り、協力させていただきました。教育委員会の生涯学習課、シルバー人材センター、流鏑馬実行委員会、ふれ合い生き生きサロン、自治会、花いっぱい運動、寿会、クリーン声かけ隊、町主催農業塾などです。農業塾では、野菜の栽培・販売のほか、町主催のイベントへの参加や、保育園の馬鈴薯掘り、小学校の稲作体験もやっています。

地方公務員として働かせていただいた恩返しのため、健康で動けるうちは地元地域のために、少しでもお役にたてばと思いい各種の活動に協力しています。

マイクロツーリズム

飯能 高野淳一

コロナ禍で、趣味の一つである旅行に行けなくなりました。飛行機はおろか、電車にさえ半年以上も乗っていません。

そこで考えたのが、ドライブを兼ねて車で県内の名所や旧跡などを巡ることです。まず訪れたのは長瀨で、岩畳に見入り、舟下りを

楽しみました。その後、橋立鍾乳洞、浦山ダム、県立川の博物館、吉見百穴、さきたま古墳群へ行きました。

また、県内の道の駅を巡るのも楽しいものです。遠くは群馬方面の山々が間近に見える岡部町の道の駅に行きました。

「灯台下暗し」と言います。海外や国内の観光地ではなく、しばらくは、身近な県内を新発見、再発見しながら、マイクロツーリズムを続けたいと思います。

コロナ禍での生活

日高 平井進

退職して十年が経つ。今年は新型コロナウイルスが猛威をふるっている。感染症がこんなにも厄介なものだとは思ってもみなかった。外出もままならない。

家の周りに五十坪程度の畑があり、日々、野菜づくりである。基本は、種からの栽培、農薬はできるだけ使わない有機栽培もどきである。できればは天候しだいだが、最もたいへんなのが虫との戦いである。アブラムシ、ネキリムシ、ヨトウムシ等々、挙げたらきりがない。特に、大食漢のヨトウムシ退治は必須で、収穫直前、全滅し

てしまう可能性がある。そこで、夜の暗い畑で、手にはピンセットと缶、頭にはヘッドライトで対応する。他の虫たちも手で捕殺するのが基本である。そんな野菜づくりの毎日である。

元気に感謝の日々

川越 久保田修平

早いもので、退職して来年で十年になります。お陰さまで葉のお世話にならずに生活しております。川越のこの地で生まれ育ち、この地を離れたことはありません。

現在は、民生児童委員(三期目)、警察署の補導員、町会の役員、医科大学のSP会(医大生の模擬患者)等のボランティア活動。趣味としては、ゴルフ、釣り、自転車での散歩、旅行、菊栽培、メダカの飼育、美術展・イベントめぐり、庭の草むしり・木の剪定、町内のグラウンドゴルフ部・ソフトボール部での活動等を行っています。更に、最近、孫のおもりも加わり、手帳にしっかりと予定を記入しておかないと周りに迷惑を掛けます。体を動かしていると安心します。いつまでこのような状態が続けられるか。元気に感謝の日々です。

「楽しみ」の発見

川越 長ヶ原美博

野菜作りに挑戦している。種を蒔き芽が出る。苗を植え根付く、ホッとする喜びがある。トマト、キュウリ、キャベツ、ナスが朝食に並ぶのが楽しみである。

「子供達が話しかけてくれました。」「授業で課題を子供達に上手く伝えることができました。」「子供達が遊びに誘ってくれました。」「若い学生の報告が嬉しい。埼玉県教員養成セミナーでお世話になっている。セミナー生の挑戦に元気を貰う楽しみを続けている。

秩父三十四観音巡りを終え、坂東三十三観音巡りの途中でコロナ禍の自粛要請。目先を変え、地域の蜚情報を得、幻想的な蜚を楽しみ、富士見市立図書館のふじ棚の回廊で紫色の優雅な花を楽しみ、地域の楽しみを沢山知った。次の「楽しみ」ワクワクだ。

「朝日」と「読売」

入間 高山 茂

退職して良かったのは、ゆつくりと新聞が読めることだ。我家では、情報源として、父の代から朝日と読売の二紙を取っている。妻

は収入が少ないのだから、どちらかにしてと言う。でも、これは譲れない。理由は、二紙の主義主張の違いが鮮明で面白いからだ。社説は勿論、平和や外交・安全保障、エネルギー問題や社会保障、経済活動や財政課題、憲法や人権・教育問題等、挙げれば切りがない。一紙だけだと真理を見間違うだろう。正しい理解に偏りは禁物だ。天声人語と編集手帳は、毎日好取組が続く。生活面や文化・科学なども面白いが、読者の声の欄は自社の思惑が明白だ。野球に関わってきた者としては、プロ野球は読売だが、高校野球は朝日がいい。これからも、平和と繁栄の世を願って両紙を見比べていく。

見つけた目標

入間東部 武宮俊夫

毎日を無為に過ごしている父親の姿を見かねたのだろう、十一年前に嫁いでいった娘が電子書籍を買ってくれた。早速開き、目次を眺めると、明治・大正時代に活躍した作家の作品がずらりと並んでいる。本独特の匂いがしないのは少々寂しいが、多くの作品に出会えるのは嬉しい。自室で漱石の作品に目を落していると、ふと故郷

での一場面が思い出された。夜、ラジオに耳を傾ける父と縫い物をする母の横で、寝そべて児童雑誌を何度も読み返している小学生の私。幸福な一時だった。これが自分の原点だと気付いた。もう一度童心に返って読書を楽しんでみよう。改めてそう思った途端、次々と他にやりたいことが浮かんできた。

退職校長会に感謝し

今、今を楽しんでいます

所沢 丸山 昇

最初に、諸先輩方に感謝します。私たちは、病老死を避けて通ることはできません。この不安をやわらげてくれるのが、退職校長会だと思えます。例えば、命つきるまで所属先があること。多様な活動を通して仲間づくりができること。これらのことを創りあげてくれた諸先輩方に、心より感謝します。

次に、私ごとですが、「今、今を楽しんでいます。食事・睡眠……」日々の生活を楽しんでいます。特に、妻とのゆつくり散歩。季節の変化を感じながら、刻々と変わる空のグラデーションを楽しんでいます。

最後に、コロナ禍を乗り越え、退職校長会の活動が、再開されることを心待ちにしています。

愛情を注いで野菜作り

所沢 志村武保

定年退職して早五年が過ぎた。この間九十八歳の父を看取り、孫が生まれ、家族構成にも変化があった。父の残した畑で野菜作りを始めた。いづどんな種を蒔いたらいいのか、間引きや収穫のタイミングなど、もつと父から聞いておけばよかつたなと思った。

試行錯誤を繰り返しながら、何とか家庭で食べられるようになり、昨年は農産物品評会でネギ、里芋、落花生が入賞したが、今年は新型コロナウイルスで品評会は中止になってしまった。土づくりからマルチ張り、種蒔き、草取り、追肥、間引き、土寄せ、消毒、収穫など作業は様々で学校現場と同じように変化がある。芽が出てからの成長が楽しみで生徒と重なる部分がある。自然相手です。うまくいかない時の方が多いが、これからは生徒と同じように愛情を注いで野菜作りをしていきたい。

作品の窓

俳句

秋深む

入間東部 富田信男

妻とゐて何言ふでなき夜長かな  
久かたの友の電話や秋深む  
卒寿来てなほ三年の日記買ふ

春の雪

狭山 新藤宣子

ででほうと啼く山鳩や寒明くる  
湯のたぎる音してしづか春の雪  
花明り過去を引き寄せ米寿かな

月夜

入間東部 金伸二郎

香を散らす琴の爪弾き梅月夜  
病んで知る心の鼓動や花月夜  
老いて尚見果てぬ夢や星月夜

木の実ごま

狭山 中内伊美子

五千歩の距離を伸ばして曼珠沙華  
閉ざさずの窓に適へり望の月  
愛称に替る法名木の実ごま

短歌

老いの中今

飯能 大高秀夫

敗荷の水面に杖曳く己が影コロナ禍  
の世の老いの中今  
GOTOの誘い躲し家居してルーム  
ステッパー肅肅と踏む  
人も疫病も流れに淀む泡沫と時世に  
攪りて『方丈記』読む

時の流れ

川越 島田和夫

人波がもどりつつある蔵の街マス  
クの中に活気覗けり  
都市開発すすむ川越駅西口子ども  
のころ刑務所ありしや  
GOTOで遠路はるばる行く友に  
元氣もらう生きる糧なり

エジプトポンド

狭山 永倉常一郎

モスクよりコーラン流るる金曜日  
大音量がカイロを包む  
それぞれがポーズを決めてギザに  
立つ砂漠にとんがる大ピラミッド  
ナツメヤシはクレオパトラの好物  
と聞きて飛び交ふエジプトポンド

時移る

飯能 浅見 信

山峡の小さき部落に学校を開きし  
先人尊く思う  
湧き水を利用して蛍を舞わせたる  
小学校の灯は消えゆきぬ  
統合を機に名称も新らたる小中  
一貫教育校生む

吾子・それぞれ

川越 綿貫孝子

節分の豆まき絶えて久しきに子の  
買ひ呉れし恵方巻喰む  
散る花を乱して鯉が泳ぐ池日課の  
散歩吾子の手借りて  
「この次ぎはお盆ね」と言い差し出  
される子の大きな手に我が手包まる

驟雨

飯能 小澤良助

間一髪洗濯物を収ひ終ふ驟雨来  
たりて忽ちに去る  
出先きより洗濯物を収つてと電話  
がありぬ妻の気遣ひ  
驟雨去り青空も見え陽光も差しぬ  
彼岸過ぎてても定まらぬ空

編集後記

過日、動画配信で浅田次郎氏の「読書が与えてくれるもの」を拝聴した。講師の読書行為は、娯楽のためと言い切り、読書はやはり活字をめくることが大事と語っていた。自分の呼吸で振り返り立ち止まりしながら、想像を広げ読み進めることは、確かな知識の獲得にも繋がっていたと語っていた。

コロナ禍にある現在、本会の諸行事も形を変えて進行しているところである。会報三七号では、会員諸氏の多様な活動紹介、例年の教育推進研究協議会では、誌上発表として紙面を二倍に広げ、この期にある学校経営の創意工夫などを掲載した。八ページ仕様の会報「いるま」をじっくりお読みいただき、会員相互の連携はもとより現職にある方々へ幾ばくかの支援の道が広がればと願っている。末尾に三密をさけながらも活字精査にあたる編集委員を紹介。

入間地区退職校長会会報

発行 令和三年二月一日

発行者 会長 井上 清

発行所 川越市並木新町二〇一二〇

印刷所 川越印刷棟 電話 049-222-1144